

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第3回高松市M I C E 振興戦略策定懇談会
開 催 日 時	平成28年11月30日（水）10時30分～11時45分
開 催 場 所	高松市役所 114会議室
議 題	(1)高松市M I C E 振興戦略（仮称）の素案について (2)香川県M I C E 誘致推進協議会について (3)その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員 （11名）	安部委員、井上委員、角谷委員（副会長）、 鹿庭委員、紀伊委員、坂口委員、土居委員、 西村委員、宮武委員、村山委員（会長）、 矢田委員
傍 聴 者	2人 （定員5人）

会議の経過及び結果

会議の冒頭、委員の半数以上が出席しており、会議が成立していることを確認し、議事に移った。

(1)高松市M I C E 振興戦略（仮称）の素案について

事務局より、高松市M I C E 振興戦略（仮称）の素案について説明。その後、委員より意見を聴取した。

（委員）

- ・「高松Tゾーン」という考え方、空間的なビジョンが反映されているので大変良かった。
- ・政策立案とか計画立案、或いは意思決定の考え方として、大きく3つのアプローチがある。計画主導型、合意形成主導型、3点目がビジョン主導型というアプローチ。この3つを上手く組み合わせることが必要だが、従来、都市計画の分野だと、どうしても技術的に最適なところを探っていく計画主導型、そこに参加している人たちの合意形成を優先する合意形成主導型、そういった考え方が主流で、なかなかビジョンを主導していくということがあまりなかった。

そのビジョンを示すような良いアイデアなのではないか。

- ・一方で、「高松Tゾーン」は総合計画等には位置付けられていないと理解しているので、拠り所となる計画に位置付けた上で、M I C E、或いは都市政策、交通政策等を進めていくためのビジョンとして活用するのが望ましいのではないか。
- ・Tゾーンは高松のTであるということで、非常にわかりやすく、市民にも受け入れてもらえる考え方ではないか。
- ・屋島もウォーターフロントの一部ということだが、コンベンション本体というよりはユニークベニューとして使っていくというアイデアだと思うので、コンベンションエリアとの間の交通をしっかりとっていくということで、これらの連携を上手く図っていくことが大事だと思う。

(会長)

- ・スポーツ施設など、Tゾーンに位置しているものもある。M I C EのEの部分に期待も込められるということで、そういった施設も記載するとTゾーンの説得力が増すと考えていた。
- ・高松らしい戦略の位置付けになると思うが、上位計画での位置付けとなると計画期間の関係もあって難しいかもしれない。

(委員)

- ・「高松Tゾーン」は高松らしさが非常に出ている。
- ・高松市のシンボルである屋島を積極的に活用すること。コンベンションエリアからウォーターフロントはそんなに移動距離も遠くなく、ものすごく動きやすいエリアである。
- ・最近屋島の活性化とウォーターフロントでのイベントもすごく活発になってきているので、このようなイベントと繋がりをもって、相乗効果をより高めることにも繋がる。
- ・市民からの賛同も得られると思うので、Tゾーンの戦略を強めていったら良い。また、より一層、屋島の魅力とか付加価値とかも高めていけると思うので非常に良い。

(委員)

- ・高松観光コンベンション・ビューローが窓口ということで重点施策に入っている。これは本当に有意義なことだ。
- ・サンポートホール高松もレクザムホールも施設が違うので運用等も全部違う。今後、市や県の条例や運用要領等を変えていかなければならない場合、ワークショップのような担当者レベルでの協議が必要になってくるのではないか。
- ・最近、高松市がM I C E振興に力を入れているということもあって、サンポートホール高松でも全国大会、各種会議、コンベンション等の利用が大変増えてきている。

- ・ 去る5月にも5年後の大会優先予約の話があった。サンポートホール高松の場合、基本的には1年前からの予約。全国大会等であれば2年前からの予約である。また、全国大会等でその日でなければ日程的に会議を開催することができないという場合には3年前の予約も受け付けている。4年前、5年前の受付というのは基本的にはできないが、今後増えてくると思う。
- ・ 理事会等では文化団体の委員から、「最近、土日は優先予約で埋まっている」「コンベンションの関係で使いたくても使えなくなっている」といった意見も出ている。
- ・ 施設を使っただけなのは本当にありがたいが、市民文化の創造拠点という位置付けで市民会館からサンポートホール高松が造られた。本来はそういう目的で造っているので、MICEを否定するものではないが、そういった御意見もあるということも十分、委員の皆様にも知っておいていただきたい。ある面では公平性も期していかないとならないのではないかと考えている。

(事務局)

- ・ どのようなMICEを優先的に予約するかという施設の利用上のルールも実施段階では決めていこうと考えている。
- ・ 決してMICEが文化芸術に優先されるものと考えているわけではなく、どちらも本市にとって重要なことであるので、一番良い形で施設が利用できるようにルール決めをしていきたい。その中で、かがわ国際会議場やレクザムホール等を巻き込んでどうあるべきか考えていきたい。

(会長)

- ・ 私が入っている別の委員会では文化芸術施設の利用率等も議論に出てくるが、土日はかなり埋まっている。平日の利用率が低いという議論が出てきてしまうが、そこをMICEが上手く埋めることができると良い。

(委員)

- ・ 国・県・市の役割分担の中で、さらに県が既に戦略を整えているのであれば、高松市が果たすべき役割は何なのか、逆に高松市が県に対して求めることは何なのかということを整理する必要がある。そのように考えると、この素案は大変よくできていると思うが、でき過ぎのような感じがして、もう少し間口を絞りこんだ方がいいのではないかと。
- ・ 戦略に書いてないからやってはいけないとかいう話ではないと思うので重点的にやっていく。それこそ戦略だから、そういう部分を絞り込んで作っていくというのも一つの方法と思う。それが難しいというのであれば、例えば、最終章に「これまで書いてきたことの中で優先順位をつけて戦術は進める」というような記載をするとか。

- ・ワンストップ窓口はどこに対して、どのサービスをワンストップにするのか。できることは、おそらくロジ担の方が主眼になると思うので、そのことをもう少し書いていけば、地元の経済界としても、自分たちにビジネスチャンスがあるということが見えてくる。
- ・『香川県MICE誘致推進方策』に、主催者のニーズについての分析があり、主催者は開催国へのアクセスという物理的な制約を除けば、開催費用総額や開催支援補助金等を重視している。こういうデータがあるのであれば、戦略を作って次の戦術に移す段階では、要は費用と言っているのであれば、そこを手厚くしなくてはならないということなのかなと思う。
- ・高松らしさはとても大事なことだが、他の自治体とかで類似のものが何々らしさとして主張されていないか、類似なものがあつたとしても高松らしさとして押していく要素なのか、競合するからあまりアピールしない方がいいのではないかとか、そういう整理をつけていくことも、戦略であるのか、もう少し下の段階であるのかは別として、そういう意識は必要と思う。

(事務局)

- ・施設予約のルールづくりだが、ターゲットとするMICEとして、500人～2,000人規模としている。実際はもう少し小さい規模も取りにいくことになると思うが、どのようなMICEについて優先的な予約をできるようにするかを整理する必要があると考えている。
- ・第3章の取組について、もう少し具体化すべきなのではないか、或いは重点取組を置くべきではないかという点については、第4章の戦略スケジュールで早期にやっていくべきもの、特に初年度は環境整備などを行い、そうした環境が整った後に営業活動を強めていくこととしている。
- ・ワンストップサービスについては、香川県MICE誘致推進協議会とも連携しながら、そのあり方について考えをまとめていきたい。
- ・補助金については、現在、高松観光コンベンション・ビューローに開催支援補助金の制度があるが、MICE振興に必要な制度設計というのを改めて検討する中で、現状の補助制度の見直しや新たな枠組みを考えていく。
- ・高松らしさについては「高松Tゾーン」や屋島の活用、それから開催効果の最大化を目指して関連事業などにも取り組んでいく。MICE参加者との交流による人材の育成や、経済活動におけるイノベーションの創出などを実現していくために、高松ならではのMICE商品を開発し、主催者にメニューとして出していけるよう、取組の段階では考えていきたい。

(委員)

- ・高松らしいM I C E誘致という点で、特にTゾーンというイメージがすごくわかりやすく良い。
- ・一方で高松市民に聞くと、高松という街がサンポートで行き止まりで、その先に離島がある意識があまりない。瀬戸内国際芸術祭でこれだけいろんな人が来て、離島が注目されているが、まだ島に行ったことがない人が多い。
- ・世界的な都市で比較しても、駅からたった20分で、フェリーで離島に行ける場所は非常に珍しい。
- ・国際会議をするような規模の施設が離島にはないが、エクスカッションとかメニューの中に、女木島や男木島、それから観光地として認識されてはいないが、大島の存在も世界的にPRする意味では重要。そういったものを盛り込んでいくことが、高松らしいM I C E誘致とか、コンテンツづくりには重要と思っている。

(委員)

- ・高松観光コンベンション・ビューローとして、今後、取り組んでいかないといけないことがほとんど。既存の良いものは残しながら、新しいものを追加でやっていく。スケジューリング感を考えながら、計画を立てないといけない。こういう素案を作っていたので、次は現場レベルで整理をしながらやっていかないといけない。
- ・先日、県立体育館のサンポート地区での建設という発表もあったので、高松の都市機能の向上、香川県の中心というよりは四国の中心になれるように、もっと言うと四国・中国の中心になれるように、M I C Eの振興に携わっていかないといけない。

(会長)

- ・県立体育館は確実にひとつの拠点にもなっていくと思う。

(委員)

- ・素案は本当に丁寧に作られている。Tゾーンという枠組み、或いは誘致のための財政的な交渉など、全て大事だと思うが、私は活動の中で市民の意識の向上や醸成のようなものを非常に意識している。
- ・一番大事なのが「また訪れたい」という部分。決断される方が何をもってこの市を選んでいただくか、或いは次回また選んでいただくかという部分の重要性も記載されていたと思うが、楽しさを経験した街、或いは楽しさが発信されている街というのは、予算とかいろんな部分はあるけれども、この街を選ぶ大きな要因になる。

(会長)

- ・いただいた意見を次の段階に向けて検討いただきたい。

(2)香川県M I C E 誘致推進協議会について

安松オブザーバーより、香川県M I C E 誘致推進協議会の組織体制について説明いただいた。

(会長)

- ・誘致活動に際して、これまで行われてなかった新たな分野について、もしアイデアがあるようでしたら、教えていただきたい。

(オブザーバー)

- ・まだ具体的ではないが、どちらかというところ今まではCの誘致が一番多かったのではないかなと思う。
- ・例えばだが、Iの部分であったり、Eの部分であったり、Mの部分であったりとかは、協議会に参画をいただいている関係団体の方々から情報をいただきながら、そういうところにもアプローチをしていくというようなイメージ。

(委員)

- ・Cに重点というのはよくわかるが、例えば、瀬戸内国際芸術祭のようなものはEと理解してよいのか。

(オブザーバー)

- ・そういうような大規模イベントも含めて、幅広く誘致していくことも考えていかなければならないのではないかな。
- ・一方で、先ほどハード・ソフトの両面からいろいろ受入体制の話も出ていたが、そういったものについても検討を要することも出てくるのではないかなと思う。

(会長)

- ・協議会は設立されたばかりで、今後関係者で詳細を詰めていくところと思う。この協議会については、本日、御参加されている方々や所属団体に関係しているところも多いと思うので、協議会と連携して、戦略的にM I C Eの振興が図られると良い。

(3) その他

- ・今後のスケジュールについて
パブリックコメントなどを実施し、原案を作成する。
第4回懇談会は平成29年2月～3月に開催し、原案に対して御意見をいただく予定。

以上をもって、本日の会議を終了することとした。

(閉会)